

微隕石探索図鑑：あなたの身近の美しい宇宙のかげら

ヨン・ラーセン(著)，野口高明(監修)，米田成一(監修)，武井摩利(翻訳)
創元社
2018年2月刊行 全152頁
ISBN：978-4-422-45003-2

岡崎 隆司¹



本書評の依頼をいただきタイトルを伺ったときは、「これまた随分マニア向けのニッチな...」との印象を持った。私を含む地球外物質研究者は惑星科学において少数派であり微隕石研究はさらに少数派。そんな稀有な人々のためだけのものか、と。ところが本書表紙を飾るのはきれいな微粒子写真の数々。マニア以外を引き込めそうな雰囲気。中を見ると、人工物にあふれた街中で微隕石を見つけるための情報が無数の写真で記されている。まず，“本物”の微隕石の起源とその特徴を記述し、その調査方法を研究者以外にもわかる平易な表現で解説している。次に，“偽物”の微隕石(地球起源微粒子)の特徴が系統的に詳細かつ簡便にまとめ上げられている。それらの情報は写真を中心にしており、実にわかりやすく気軽に楽しんで読み続けられる。我々微隕石研究者がどんなに熱弁を振るって微隕石の重要性などを説明してもほとんどの方は興味も関心も持たれないだろうが、本書を眺めるだけで不思議と好奇心が湧いてくる(気がする)。“偽物”である地球起源微粒子の情報もそれらの起源と特徴がまとめられており、我々研究者にとっても興味深い。しかし、本書本来の目的は著者自身の執筆動機であるように、研究者でない一般の人々が地球外物質に興味・関心を持ち、実際に手を動かして砂塵を様々な場所で採取し、自分たちの目で見えて微隕石鑑定を行うきっかけとなることであろう。私も小・中学生に物質科学の面白さを伝えるきっかけに本書を使おうと思った。惜しむらくは、大学・研究機関以外では実体顕微鏡や電子顕微鏡を使用できる環境は極限られており、一般の方が本書を使って微隕石を発見するのは実際には不可能である

と予想する。これらの装置を使わずしてハンドルーベ程度の器具やかんたんに自作できる器具で“微隕石探索”ができる方法を見出すことが次のステップか。そのためにも多くの方が本書を手にし、微隕石探索のための画期的アイディアを創出することを期待したい。

1. 九州大学大学院理学研究院
okazaki.ryuji.703@m.kyushu-u.ac.jp